



同志社校友会神奈川県支部 120年史

【新島襄が帰国した頃の横浜港 象の鼻埠頭】



絵師: 歌川広重(三代目)
制作年: 明治3年(1870)
所蔵: 横浜開港資料館

Doshisha Alumni Association Kanagawa

120年史発刊にあたって

同志社校友会神奈川県支部
支部長

竹村慶三(昭和45年法学部卒)



支部創立120年記念事業として「神奈川県支部の歴史調査・編纂・発刊」に取り組みました。その目的に次の三つを掲げました。

- ① 温故知新！ 支部発足以降今日までの歴史・活動内容を探りそこから学ぶ。
 - ② 配布により一層多くの校友に参加いただき絆を強め更なる支部活動充実・発展を期する。
 - ③ 新島襄ゆかりの横浜市・大磯町等自治体への配布を通じ、地域交流・同志社知名度向上に資する。
- そして口伝ではなく全て史実に基づき作成することを基本に後記記載の支部三役(支部長・副支部長・幹事長)に加藤さんを加え6人の編集員が資料収集に取りかかりました。同志社大学同志社社史資料センター小枝様、校友会熊谷事務長様から懇切なるご指導・資料提供と支部長経験者・諸先輩の保有資料によりここに編纂・発刊できましたことを先ずもって厚くお礼申し上げます。

当初は東京支部の活動に参加されていた諸先輩が、神奈川県在住者も多くなったので独立して支部設立しようの動きとなり、その時期は昭和30年代頃と想定していました。

ところが資料調査の中で、明治30年の校友会規約改定(第三条 五人以上の会員ある地方に支部を設くる事を得)を受けて、明治31年初夏に堀貞一先輩(牧師)が発起されて横浜に5~6名が相集い集會して横浜校友会が発足、これが神奈川県支部の前身という驚愕の史実を発見。今年が発足119年、来年が120周年と脈々と続く諸先輩が創り上げられた支部の歴史の重さを再認識した次第です。

神奈川県支部は校祖新島襄ゆかりの地 象の鼻埠頭帰港・帰国の地横浜、終焉の地大磯と二つの資産に加え120年の歴史という三つの資産を持ちました。大きな誇りであると同時に校友の絆の更なる強化と母校同志社の発展寄与という大きな責務があります。校友の皆さまには是非ご一読され支部会員の誇りを感じていただきますとともに支部活動に一層積極的に参加くださいますようお願い申し上げます。

同志社校友会神奈川県支部 歴代代表者 (敬称略)

1898(明治31)年	発起人	堀貞一	1936(昭和11)年	支部並幹事	蜂谷為之
1902(明治35)年	幹事	松岡正福 山崎誌直	1940(昭和15)年	"	秦孝治郎
1903(明治36)年	常任幹事	松岡正福 近藤賢二 兒玉亮太郎	1943(昭和18)年	"	近藤壽榮雄
1904(明治37)年	"	横山一作 山崎直 小泉土之丞	1949(昭和24)年	支部並支部長	平賀徳造
1906(明治39)年	常設委員	近藤賢二 横山一作	1952(昭和27)年	支部長	井上順
1907(明治40)年	"	山岡邦三郎 松本常吉 大庭猛	1955(昭和30)年	"	保土田憲吉
1908(明治41)年	"	成瀬金一郎 梶川権一郎 廣田松次郎	1970(昭和45)年	"	岩田稔
1910(明治43)年	"	横山一作氏 近藤賢二 鈴木左馬次郎	1979(昭和54)年	"	沼田伸一
1911(明治44)年	"	横山總介 近藤賢二	1992(平成4)年	"	中谷浩
1914(大正3)年	"	横山總介	1999(平成11)年	"	長谷川博行
1918(大正7)年	支部及委員	阪上安蔵 渡邊哲英	2004(平成15)年	"	河野益夫
1925(大正14)年	支部及役員	阪上安蔵	2006(平成18)年	"	山崎一徳
1926(大正15)年	"	浅野静夫 森下貞太郎	2008(平成20)年	"	大坂岱樹
1930(昭和5)年	支部並幹事	阪上安蔵	2014(平成26)年	"	竹村慶三

明治31年発足以来昭和52年まで横浜支部、昭和53年に神奈川県支部、昭和58年に神奈川県支部に改名

【参考資料】「同志社校友会々報」、「同志社校友会便覧」、「The Doshisha Times」

1898(明治31)年 横浜校友会発足

●横濱校友會の由来 横濱の地由来我校友の足を停むるもの頗る稀なり今より數年前に於ては僅かに隻手の指を屈するに足らず故を以て従來成文規則なく只々有志者數名の互に氣脈を通じて時に會合せしのみなり
回顧すれば明治三十一年初夏の交、堀貞一君の發起に依り野毛町二丁目西洋亭に於て僅かに數名の同窓相會合したるもの蓋し第一回の集會となす爾來年を経る事四、回を重ねること八、其間我校友の或は去るあり或は來るあり出入常なかりしと雖も微々たる會合を繼續して今日に至り遂に本年本月本日會員の協議を経て我横濱校友會の規則を編纂するに至れるは蓋し漸次我校友の増加したる結果にして希くは將來益々我同窓の舊誼を温め其團結を鞏固にし小は以て各員相互の福利を圖り大は以て國家的事業の搖籃たらんこと是れ實に我等の本會に渴望する所なり矣聊か当地校友會過去の経累を追懐し將來の希望を開陳して記事録の巻首を汚すと云爾
明治三十五年二月八日
横濱校友會第九回幹事
松岡正福
山崎誌直

横浜校友会の由来

1898(明治31)年
堀貞一君發起により野毛町西洋亭において數名が相會合して
横濱校友會發足

「横濱校友會發足と横濱校友會規則制定」の記事全文

明治35年8月発行「同志社校友会々報 第10號」

(原文のままですが旧字体は新字体に一部変換してあります。)

横濱校友會の由来 横濱の地由来我校友の足を停むるもの頗る稀なり今より數年前に於ては僅かに隻手の指を屈するに足らず故を以て従來成文規則なく只々有志者數名の互に氣脈を通じて時に會合せしのみなり
回顧すれば明治三十一年初夏の交、堀貞一君の發起に依り野毛町二丁目西洋亭に於て僅かに數名の同窓相會合したるもの蓋し第一回の集會となす爾來年を経る事四、回を重ねること八、其間我校友の或は去るあり或は來るあり出入常なかりしと雖も微々たる會合を繼續して今日に至り遂に本年本月本日會員の協議を経て我横濱校友會の規則を編纂するに至れるは蓋し漸次我校友の増加したる結果にして希くは將來益々我同窓の厚誼を温め其の團結を鞏固にし小は以て各員相互の福利を圖り大は以て國家的事業の搖籃たらんこと是れ實に我等の本會に渴望する所なり矣聊か当地校友會過去の経累を追懐し將來の希望を開陳して記事録の巻首を汚すと云々
明治三十五年二月八日
横濱校友會第九回幹事
松岡正福
山崎誌直

1941(昭和16)年11月25日 新島襄終焉地記念碑建立

「大磯町に新島襄終焉地記念碑建立」の記事全文

「同志社新報 昭和16年12月20日 第64号」

(原文のままですが旧字体は新字体に一部変換してあります。)



新島先生終焉の地大磯町元むかで屋旅館跡にせめては石碑でも建立して置き度いとは何人もが希望して居た事であった。然るに全地所が活動寫眞館になつていた事があつたので手の出しようもなかつた。處が此度右の地が旧国道と新国道の中間に介在して空地となつたので、専ら秦孝治郎理事の斡旋と大磯町長を始め多くの人々の熱心なる協力により、記念碑建設が実現し去る十一月二十五日午後二時盛大なる除幕式が催された。

町長郷土久蔵氏は新島先生は梅樹がお好きであつたと聞かれ国民学校庭にあつた太い古梅を石碑の傍らに移植され又三、四尺の地盛りには国民学校の全生徒が勤勞奉仕をなした事等々聞く一つ一つが在天の新島先生の喜んで下さる事であると思われた。

石は上州原市の社友半田善四郎氏の寄贈で上州特産の自然石である。

徳富先生又此挙を賛せられ自らも碑文を左の如く執筆下さつた。

碑面
新島襄先生終焉之地
新島先生永眠五十周年ニ際シ門生建之
昭和十五年十月
蘇峰徳富正敬書
石ハ先生故郷碓氷ノ産ニシテ半田善四郎君ノ寄贈ナリ

除幕式は校友同窓多数参列下され町の有力者を併せて百数十名であつた。次第左の如し

一、除幕式
国民儀礼
皇居遙拝
黙 禱
聖書朗読
祈 禱
除幕
挨拶
祝 辞
祝 辞
祝 辞
閉会の挨拶

平賀徳蔵牧師
堀 貞一牧師
秦實枝子嬢
牧野総長
代 読 徳富猪一郎氏
町長 郷土久蔵氏
校友会 若松兎三郎氏
司会者 司会 秦孝治郎氏

引続き国民学校に於いて町の有力者百十名参集を願ひ新島先生を語る会を催した。

奥村理事司会をなし和やかな裡に故先生の全人格を大磯町の人々に語り傳うるに適はしき集会で合つた。

秦理事の経過報告に次ぎ浮田和民、麻生正蔵、南熊夫、堀貞一、丸山傳太郎の諸氏の話があつたが堀先生の「新島先生自らの手を打つ」話には一同多大の感銘をうけ涙をすすすつて聞いて居た人が多かつた。

全夜大内館にて、町長、警察署長、学校長、町会議員等と会食をしたのであるが、町では学校を中心にして毎年一月二十三日先生昇天の記念日には記念式を催すと申しておられた。

新島襄とゆかりの地・横浜・大磯について

新島襄は 1864(元治元)年、鎖国の禁を犯して函館から出国し米国に渡り、幾多の困難を乗り越えて、日本人では初めて米国の大学を卒業し、キリスト教主義の私学を日本に創ろうとの大きな志を抱いて、10年後の1874(明治7)年11月26日に横浜港に帰国しました。

早くも翌年には京都で同志社英学校を開校しました。その後、大学設立のため、奔走中、病に倒れ、大磯にて静養中の1890(明治23)年1月23日、46歳11ヶ月の生涯を閉じました。

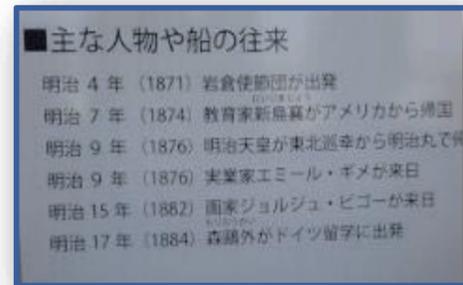
神奈川の同志社関連史跡



明治初期の横浜 象の鼻埠頭

1.新島襄帰港看板(横浜港 象の鼻パーク)

新島襄が米国から帰国して、日本に上陸した埠頭は象の鼻パークとして整備されています。横浜開港150周年に建設された横浜港の歴史を書いた看板の「主な人物や船の往来」の中に明治7年(1874)「教育家新島襄が明治7年アメリカから帰国」と記載されています。



■主な人物や船の往来

明治4年(1871) 岩倉使節団が出發
明治7年(1874) 教育家新島襄がアメリカから帰国
明治9年(1876) 明治天皇が東北巡幸から明治丸で帰
明治9年(1876) 実業家エミール・ギメが來日
明治15年(1882) 國家ジョルジュ・ピゴールが來日
明治17年(1884) 森鷗外がドイツ留学に出發



2.市原盛宏プレート(横浜港 象の鼻パーク)

熊本バンド・同志社英学校出身でエール大学卒業、第四代横浜市長に就任。港湾整備などで横浜市に功績のあつた人物として名を連ねています。

3.新島襄終焉之地碑(大磯町)

静養先の百足屋旅館跡に碑が建立されており、命日の1月23日には同志社主催で毎年碑前祭が行われ、多くの卒業生などが集って襄の遺徳を偲んでいます。



百足屋の離れ 愛松園

(同志社社史資料センター所蔵)



新島襄 臨終図

(同志社社史資料センター所蔵)



新島襄終焉之地碑

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1897(明治30)年		6月25日校友会規約改正 「第三条 五人以上の会員ある地方に 支部を設ける事を得」(原文)
1898(明治31)年	同志社横浜校友会 第1回集会・発足 「西洋亭」	「堀貞一君発起に依り数名の 同窓相會合す。」(原文)
1902(明治35)年	2月8日 同志社横浜校友会第9回集会 「横浜市太田町日盛樓」	横浜同志社校友会規則編纂 横浜校友会第9回幹事： 松岡正福氏、山崎誌直氏
1903(明治36)年	4月2日 横浜同窓会 「田中屋」 13名	常任幹事： 松岡正福氏、近藤賢二氏、兒玉亮太郎氏
	10月11日 横浜同窓会秋季集会 「嘉以古樓」 15名	来年度委員：横山一作氏、山崎 直氏 小泉士之丞氏の3名選出 「市原盛宏、折原俊秀両氏元老として 正座に据え他は抽選にて着席」(原文)
1904(明治37)年	横浜同窓会 「晚霞樓」 10名	益田義彦氏送別会の小会 「当日は海軍の大勝利を祝するため市民の提灯行列 挙行に際したれば公園内眼前に盛大なる灯火 爆竹を見もし聞きもしつづ会を了した。」(原文)
1906(明治39)年	1月19日 横浜同志社同窓会 「田中屋」 20名	校友 市原盛宏横浜市長も参加 「今般日本銀行横濱支局長小野英二郎氏 同志社の理事たる事を快諾」(原文)
	3月2日	横浜支部 常設委員 近藤賢二氏、横山一作氏選挙
1907(明治40)年	1月27日 横浜同窓会 新年会 「田中屋」 20名	横浜支部 常設委員 山岡邦三郎氏、松本常吉氏、大庭猛氏選出
1908(明治41)年・ 1909(明治42)年		横浜支部 常設委員 成瀬金一郎氏、梶川権一郎氏、廣田松次郎氏
1910(明治43)年		横浜支部 常設委員 横山一作氏、近藤賢二氏、鈴木左馬次郎氏
1911(明治44)年～ 1913(大正2)年		横浜支部 常設委員 横山總介氏、近藤賢二氏
1914(大正3)年・ 1915(大正4)年		横浜支部 常設委員：横山總介氏
1916(大正5)年・ 1917(大正6)年		横浜支部 支部及委員：横山總介氏

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1918(大正7)年～ 1920(大正9)年		横浜支部 支部及委員 阪上安蔵氏、渡邊哲英氏
1921(大正10)年～ 1924(大正13)年		横浜支部 支部及役員 阪上安蔵氏、渡邊哲英氏
1925(大正14)年		横浜支部 支部及役員：阪上安蔵氏
1926(大正15)年		横浜支部幹事改選(10月10日) 支部及役員：浅野静夫氏、森下貞太郎氏
1927(昭和2)年～ 1929(昭和4)年		横浜支部 支部及役員 浅野静夫氏、森下貞太郎氏
1930(昭和5)年～ 1934(昭和9)年		横浜支部 支部並幹事：阪上安蔵氏以下5名
1935(昭和10)年	3月6日 横浜支部例会 「横浜銀行集会所」 10名	講演会 講師 浦口文治先生 演題 「ハムレットの現代精神」 横浜支部 支部並幹事：阪上安蔵氏以下4名
	10月5日 横浜支部会 「横浜YMCA」 18名	湯浅八郎同志社総長
1936(昭和11)年～ 1939(昭和14)年		横浜支部 支部並幹事：蜂谷為之氏以下5名
1940(昭和15)年	4月23日 横浜支部会合 「横浜基督教青年会」 18名	牧野総長より母校の現状を聴くの会 蜂谷氏送別会 新卒業生の歓迎会 牧野虎次同志社総長 秦孝治郎東京支部長兼横浜支部長以下4名
1941(昭和16)年	11月25日 新島襄終焉地 記念碑建立除幕式 (石碑揮毫：徳富蘇峰) 「大磯町」 百数十名	新島先生永眠50周年にあたり大磯町・ 同志社・校友会の協力で記念碑建立 郷土久蔵大磯町町長 徳富猪一郎(蘇峰)氏 牧野虎次同志社総長 若松兎三郎同志社校友会会長 秦孝治郎校友会東京支部長兼横浜支部長
1943(昭和18)年～ 1948(昭和23)年		横浜支部 支部並幹事：近藤壽榮雄氏以下5名
1949(昭和24)年	9月28日	横浜支部 秦孝治郎横浜支部長退任 平賀徳造横浜支部長就任

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1950(昭和25)年・ 1951(昭和26)年		横浜支部 支部並支部長：平賀徳造氏
1952(昭和27)年		横浜支部 支部長：井上順氏
1953(昭和28)年	5月14日 横浜支部会合 「横浜銀行協会」 16名	大塚節治同志社総長
1954(昭和29)年	5月1日 横浜支部会合 「横浜銀行協会」 16名	大塚節治同志社総長 兵頭勝氏「植林論」
1955(昭和30)年～ 1969(昭和44)年		横浜支部 支部長：保土田憲吉氏 横浜高島屋、駅ビル、中華街華正楼、 シルクセンター、伊勢佐木町裏貸事務所等で 毎年実施するも詳細不明
1970(昭和45)年	11月18日 横浜支部総会 「華正楼」 60名余	保土田憲吉支部長退任 岩田稔支部長就任
1971(昭和46)年～ 1978(昭和53)年		横浜支部 支部長：岩田稔氏 総会資料なく詳細不明
1979(昭和54)年	6月14日 神奈川支部総会・懇談会 70名	巽悟朗同志社校友会会長 2年ぶりに総会・懇談会開催 岩田稔支部長退任 沼田伸一支部長就任
1982(昭和57)年	5月21日 神奈川支部総会・懇談会 「横浜東急ホテル」 80名	上野直蔵同志社総長 3年ぶりに総会・懇談会開催
1984(昭和59)年	6月18日 神奈川県支部総会・懇談会 「横浜東急ホテル」 130名	上野直蔵同志社総長 コーラスグループ 校友「タイムファイブ」出演
1986(昭和61)年	5月26日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部合同総会 「横浜東急ホテル」 110名 (① 81名② 29名)	

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1987(昭和62)年	6月22日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同懇親会 「横浜東急ホテル」 130名 (①106名② 24名)	松山義則同志社総長 校友タイムファイブ生演奏
1988(昭和63)年	6月8日 同志社校友会神奈川県支部・ 同窓会横浜支部合同総会 「横浜東急ホテル」 160名	松山義則同志社総長 校友タイムファイブ生演奏
1989(平成元年)	6月12日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同懇親会 「横浜東急ホテル」 180名 (①145名② 35名)	
1990(平成2)年	6月25日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同総会 「横浜東急ホテル」 155名 (①132名② 23名)	松山義則同志社総長 笹田友三郎同志社大学学長 クローバークラブのコーラス
1991(平成3)年	7月5日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同総会 「横浜東急ホテル」 120名 (① 92名② 28名)	
1992(平成4)年	9月16日 同志社校友会神奈川支部・ 同窓会横浜支部合同総会 「横浜東急ホテル」 119名 (① 95名② 24名)	松山義則同志社総長 沼田伸一支部長退任 中谷浩支部長就任

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1993(平成5)年	6月22日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同懇親会 「ホテル・ザ・エルシイ」 104名 (① 85名② 19名)	大下道同志社同窓会会長
1994(平成6)年	10月12日 同志社校友会神奈川支部・ 同窓会横浜支部 合同総会 「ホテルリッチ横浜」 143名 (①131名② 12名)	松山義則同志社総長 大下道同志社同窓会会長
1995(平成7)年	10月19日 同志社校友会・ 同窓会神奈川支部 合同総会・懇親会 「ホテル・ザ・エルシイ」 123名 (①107名② 16名)	松山義則同志社総長
1996(平成8)年	8月25日 神奈川同志社シニア ウォーキングクラブ 発会式 「野毛彩菜」 9名	河野益夫発起人はじめ10名ほどの校友で発足 同志社神奈川県支部の 校友・同窓・その家族の健康、 親睦、情報交換を目的とした団体 8月を除き年11回開催
	10月6日 第1回神奈川同志社シニア ウォーキングクラブ例会 6名	歩行コース 「江の島―片瀬西浜海岸―鵜沼橋― 松浪町―辻堂海浜公園―辻堂」
	10月17日 同志社校友会神奈川支部・ 同窓会横浜支部 合同総会・懇親会 「横浜ロイヤルパークホテルニュー」 133名 (①111名② 22名)	松山義則同志社総長

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
1997(平成9)年	11月12日 同志社校友会神奈川支部・ 同窓会横浜支部 合同総会・懇親会 「横浜駅東口 崎陽軒」 152名 (①131名② 21名)	松山義則同志社総長
1998(平成10)年	11月17日 同志社校友会神奈川支部・ 同窓会横浜支部 合同総会・懇親会 「横浜駅東口 崎陽軒」 132名 (①119名② 13名)	松山義則同志社総長 八田英二同志社大学学長
1999(平成11)年	11月14日 同志社校友会 神奈川支部・ 同窓会横浜支部、 湘南支部 合同懇親会 「横浜ベイフロントホテル&ターズ」 206名 (①176名② 30名)	講演会 講師 理学博士 平野富雄氏 演題 「箱根の温泉と神奈川の地震 -自然の恵みと脅威-」 松山義則同志社総長 八田英二同志社大学学長 中谷浩支部長退任 長谷川博行支部長就任
	11月 支部会員名簿発刊	中谷浩支部長が懸案の会員名簿整備に取り組み、 長谷川博行支部長が発刊を実現 A5版全122頁
2000(平成12)年	11月21日 同志社校友会神奈川支部 同窓会横浜支部 合同懇親会 「横浜駅東口 崎陽軒」 141名 (①129名② 12名)	松山義則同志社総長 八田英二同志社大学学長
2001(平成13)年	9月1日	同志社校友会神奈川県支部会則制定
	11月20日 同志社校友会・同窓会 神奈川合同懇親会 「崎陽軒本店」 125名 (①111名② 14名)	八田英二同志社大学学長 秋田まち子同志社校友会会長

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
2002(平成14)年	11月14日 同志社校友会・同窓会 神奈川県懇親会 「崎陽軒本店」107名(① 85名② 22名)	森田潤司同志社女子大学学長 秋田まち子同志社校友会会長 ミュージックタイム (シャンソンの時代) パッサージュ (頒啓会イン関東メンバー)
2003(平成15)年	11月8日 同志社神奈川の集い 校友会・ 同窓会横浜・湘南支部 合同懇親会 「崎陽軒本店」 129名 (① 117名② 12名)	講演会 講師 松島憲之氏 (校友 昭57経卒) (日興シテイクグループ証券会社マネージングディレクター) 演題 「日本経済と自動車業界」 大谷實同志社総長 八田英二同志社大学学長 秋田まち子同志社校友会会長 鷺淵紹子同志社同窓会会長 長谷川博行支部長退任 河野益夫支部長就任
2004(平成16)年	11月20日 神奈川県支部総会・懇親会 「ワークピア横浜」	
	11月 支部会員名簿発刊	河野益夫支部長が会員名簿第2号を発刊 (最終版) A4版全63頁
2005(平成17)年	11月20日 同志社神奈川の集い 「ワークピア横浜」	河野益夫支部長退任
2006(平成18)年	11月10日 同志社校友会神奈川・ 同窓会横浜合同懇親会 「崎陽軒本店」 123名 (①110名② 13名)	山崎一徳支部長就任
2007(平成19)年	11月9日 同志社神奈川県支部総会・ 懇親会 「ホテルニューグランド」105名	大谷實同志社総長 Nicholas John Teele 同志社女子大学学長 秋田まち子同志社校友会会長
2008(平成20)年	1月1日 支部ホームページ開設	神奈川県支部ホームページ「同志社神奈川のあけ」開設
	10月10日 同志社校友会神奈川及び 同窓会横浜・湘南 合同懇親会 「崎陽軒本店」 130名 (①117名② 13名)	山崎一徳支部長退任 大坂岱樹支部長就任

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
2009(平成21)年	6月2日 横浜、開港150年記念の 大博覧会に呼応して イベント「新島襄と横浜開港」 (同志社校友会 神奈川県支部主催) 「赤レンガ会場」	横浜港 象の鼻パークに 「新島襄帰港看板」設置 (山崎支部長が横浜市に申請して実現化) イベント内容 写真パネル展示・ビデオ上映、 遺品画像の映像、マンドリンクラブ演奏、 聖歌隊による合唱
	10月18日 同志社神奈川の集い (総会・講演会・懇親会) 「崎陽軒本店」 114名 (①109名② 5名)	講演会 講師 理学博士 平野富雄氏 演題「いつきても不思議でない 首都圏大地震」 大谷實同志社総長 秋田まち子同志社校友会会長
2010(平成22)年	1月16日 アラフォー会発足 新年会 「中華街 萬珍楼」 12名	アラフォー会は昭和41年～49年卒業主体の 神奈川県在住の校友・同窓の散策・ 親睦組織 年3～4回散策・懇親会実施
	10月17日 同志社神奈川の集い (総会・講演会・懇親会) 「崎陽軒本店」 114名 (① 99名② 15名)	講演会 講師 セコム(株)取締役会長 木村昌平氏 演題 「究極の安心 ～高齢化と不確実性の時代に 求められるもの～」 野本真也同志社理事長 秋田まち子同志社校友会会長
2011(平成23)年	10月15日 同志社神奈川の集い (総会・映画観賞会・懇親会) 「崎陽軒本店」 102名 (①93名② 9名)	映画観賞会 「大地の詩 ～留岡幸助物語～」 村上弘明・工藤夕貴主演 大谷實同志社総長 木村昌平同志社校友会副会長
2012(平成24)年	10月14日 同志社神奈川の集い (総会・講演会・懇親会) 「崎陽軒本店」 103名 (①95名② 8名)	講演会 講師 同志社大学大学院教授 加藤千洋氏 演題 「中国の今～強い国家と脆弱な社会～」 大谷實同志社総長 木村昌平同志社校友会副会長

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
2013(平成25)年		校友会本部が支援金制度として、 事務経費拡大(現・支部経常経費)・ 支部内活動活性化(現・支部会員拡大活性化)・ 地域交流活性化の各支援金制度制定 当支部では、以降この制度を活用して 積極的事業展開
	1月23日 終焉之地碑前祭後 地域交流講演会 「大磯町保健センター」 100名(一般70名①②30名)	NHK大河ドラマ「八重の桜」放映記念講演会 講師 作家・評論家 保坂正康氏 演題 「八重と新島襄」 村田晃嗣同志社大学学長 中崎久雄大磯町町長
	10月6日 2013同志社神奈川の集い (総会・講演会・懇親会) 「崎陽軒本店」 124名(①111名②13名)	講演会 講師 同志社大学学長 村田晃嗣氏 演題 「日米中関係の変容」 村田晃嗣同志社大学学長 木村昌平同志社校友会副会長
	12月14日 地域交流講演会 「紅葉坂教会礼拝堂」 134名(一般50名、①②84名)	NHK大河ドラマ「八重の桜」放映記念講演会 講師 同志社大学大学院教授 佐伯順子氏 演題 「新島八重から現代へ ～ハンサムウーマンから学ぶもの～」
2014(平成26)年	6月22日 若手会員増強・ 大磯史跡巡り&懇親会 30名(新人22名)	大磯史跡巡り (新島襄終焉之地碑、嶋立庵ほか)
	10月26日 同志社神奈川の集い2014 ～新島襄 横浜港 帰国140周年～ 総会・講演会・懇親会 「崎陽軒本店」 113名(①85名②28名)	講演会 講師 横浜市立市ヶ尾中学校校長 平川理恵氏 演題 「教育理念は自立貢献 ～「学習する学校」の実現をめざして～」 懇親会 独唱 寒梅詩、エーデルワイス 葛西みな子氏 大谷實同志社総長 中村友一同志社校友会副会長 大坂岱樹支部長退任 竹村慶三支部長就任

同志社校友会神奈川県支部の歴史年表		
西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
2014(平成26)年	11月26日 新島襄横浜港帰国 140周年記念事業 植樹、式典・講演会・懇親会 植樹：オオシマザクラ 「横浜赤レンガパーク緑地内」 式典・講演会・懇親会 「ナビオス横浜」 92名	講演会 講師 元同志社大学神学部教授 本井康博氏 演題 「新島襄の再出発 ～横浜から大磯へ～」 前大坂岱樹支部長が企画・実現された 「140周年記念事業についてのお話」 大谷實同志社総長 中村友一同志社校友会副会長
	2015(平成27)年	1月23日 地域交流事業 カタルパ苗木寄贈植樹 「二宮 徳富蘇峰記念館」
2015(平成27)年	4月4日 若手会員増強・ 横浜港散策&懇親会 「ナビオス横浜」 30名(新人22名)	新島襄帰国地 横浜港散策(象の鼻パークほか) 新島襄横浜港帰国140周年記念植樹の オオシマザクラ見学
	4月28日 地域交流事業 カタルパ苗木寄贈植樹 「大磯町運動公園」	受贈者 中崎久雄大磯町町長
	8月30日 同志社フェア in 安中 54名	主催：同志社大学 共催：同志社校友会
	11月22日 同志社神奈川の集い2015 ～同志社創立140周年～ (総会・講演会&インタビュー・ 懇親会) 「崎陽軒本店」 117名(①100名②17名)	講演会 講師 学校法人同志社総長 大谷實氏 演題 「刑事法に関わる今日的課題」 インタビュー 「人間 大谷総長と同志社」を語る 懇親会 ミニコンサート 歌手・シンガーソングライター 伊藤誠氏(校友 昭51商卒) 大谷實同志社総長 中村友一同志社校友会副会長
11月29日 地域交流事業 カタルパ苗木寄贈植樹 「逗子市蘆花記念公園」	同志社創立140周年記念として逗子市へ寄贈	

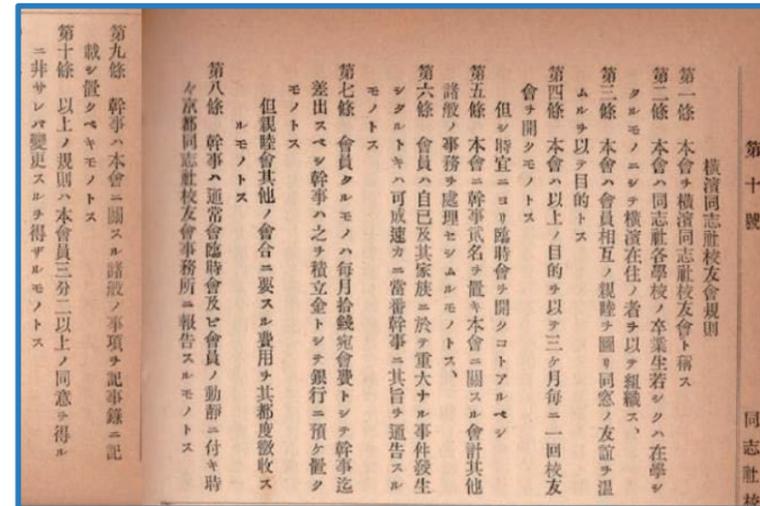
同志社校友会神奈川県支部の歴史年表

西暦(和暦)	開催日・行事・「会場」 参加者数(①校友会員②同窓会員)	特記事項・主来賓
2016(平成28)年	1月23日 終焉之地碑前祭後 地域交流講演会 & コンサート 「大磯聖ステパノ学園 海の見えるホール」 200名 (一般120名①②80名)	講演会 講師 同志社大学社史資料センター 小枝弘和氏 演題 「新島襄と終焉の地大磯」 コンサート 歌手・シンガーソングライター 伊藤誠氏 (校友 昭51商卒) テーマ いのちを歌う 村田晃嗣同志社大学学長
	9月13日 地域交流事業 カタルパ苗木寄贈植樹 「桜美林大学」	受贈者 佐藤東洋士桜美林学園理事長・総長 名取襄一同学園常務理事 三谷高康桜美林大学学長
	9月17日 若手会員増強事業を改称して 若手の会発足 「京都つゆしゃぶ CHIRIRI」 19名 (新人18名)	昭和55年以降卒業の若手が企画・運営 講演会 講師 同志社大学大学院教授 浜矩子氏 演題 「日本経済のゆくえ ～政策崩壊がもたらすもの～」
	11月20日 神奈川同志社 シニアウォーキングクラブ 200回記念誌発行	
	11月23日 同志社神奈川の集い2016 (総会・講演会・懇親会) 「崎陽軒本店」 118名 (①102名② 16名)	講演会 講師 全日本空輸(株)取締役専務執行役員 河本宏子氏 演題 「お客様と仲間の笑顔を最高の歓びに」 二重唱 葛西みな子氏 秋葉多恵子氏 ピアノ演奏 矢野純子氏 松岡敬同志社大学学長 藤澤義彦同志社大学副学長 中村友一同志社校友会副会長 玉村三保子同志社同窓会会長

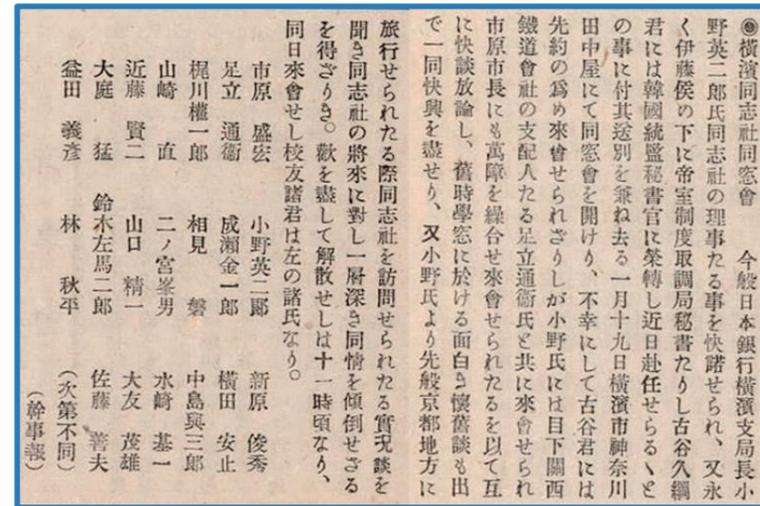
【参考資料】 [同志社校友会々報]、[同志社校友会便覧]、[同志社時報]、[同志社新報]、[The Doshisha Times]

資料編

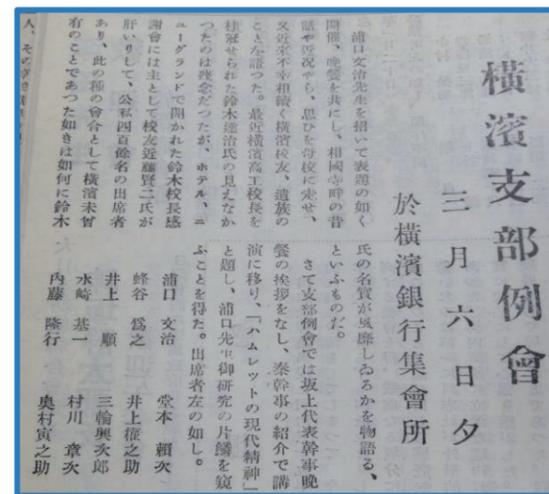
1902(明治35)年～1935(昭和10)年の主な出来事



1902(明治35)年
2月8日
横濱同志社校友会
規則編纂
「同志社校友会々報
第10號」



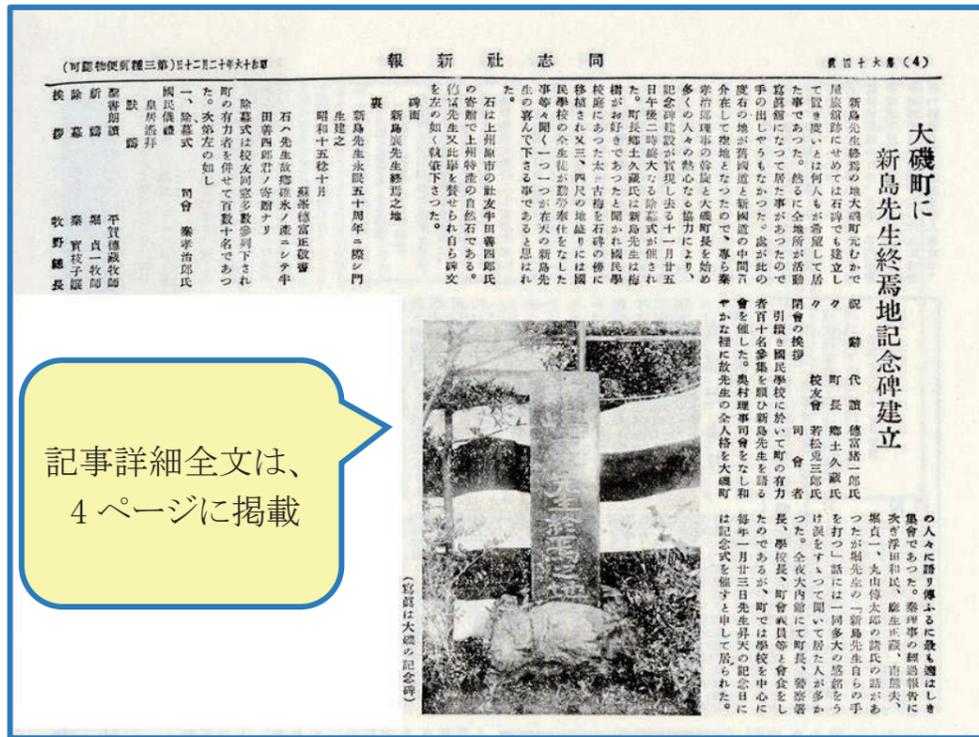
1906(明治39)年
1月19日
横濱同志社同窓會
於：田中屋
参加者：20名
「同志社時報 第18號」



1935(昭和10)年3月6日
横濱支部例會の開催
代表幹事：阪上安蔵氏
於：横濱銀行集會所
講演会
演題：「ハムレットの現代精神」
講師：浦口文治先生
「同志社校友同窓會報第96號」

資料編

1941(昭和16)年～1970(昭和45)年の主な出来事



記事詳細全文は、
4 ページに掲載

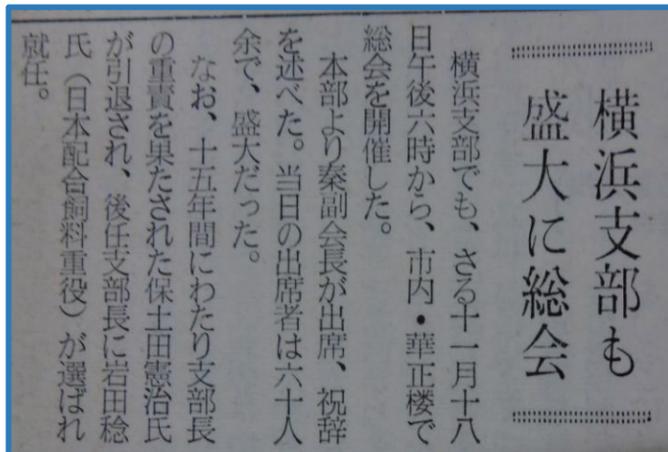
1941年(昭和16)年11月25日

大磯町に新島襄終焉地記念碑建立

新島先生永眠50周年にあたり大磯町・同志社・校友会の協力で盛大な除幕式

「同志社新報 1941(昭和16)年12月20日 第64号」

1970(昭和45)年11月18日
横浜支部総会 於:華正樓
15年間にわたり支部長の重責を果たされた保土田憲吉氏が引退され、後任支部長に岩田稔氏が選ばれ就任

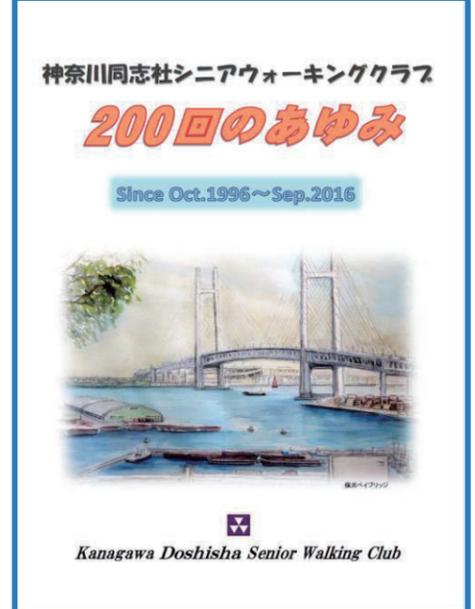


資料編

1982(昭和57)年～2016(平成28)年の主な出来事



1982(昭和57)年5月21日
神奈川支部総会 (3年ぶりの総会)
於:東急ホテル
「The Doshisha Times 第350号」



1996(平成8)年8月25日
神奈川同志社シニアウォーキングクラブ
発起人会、発会式
於:野毛彩菜 参加者:10名ほど

1996(平成8)年10月6日
神奈川同志社シニアウォーキングクラブ
第1回例会
歩行コース:江の島-片瀬西浜海岸-鶴沼橋-松浪町-辻堂海浜公園-辻堂
参加者:6名

2016(平成28)年11月20日
神奈川同志社シニアウォーキングクラブ
200回記念誌発行

1999(平成11)年11月
同志社校友会神奈川支部
会員名簿発刊



資料編

2009(平成21)年～2014(平成26)年の主な出来事

2009(平成21)年6月2日
横浜 開港150年記念の大博覧会に
呼応して
イベント『新島襄と横浜開港』
(同志社校友会神奈川県支部主催)

横浜開港150周年記念イベント
横浜、150年目の大博覧会。
開国博Y150「バイサイド市民協賛」
『新島襄と横浜開港』(同志社校友会神奈川県支部)

会場：赤レンガ会場(1号館)2階スペース
日時：6月1日(月) & 6月2日(開港記念日) 11:00～20:00

横浜開港から15年後の1874年(明治7年)、新島襄は10年間の海外遊学を終え、横浜の港(象の鼻地区)に帰ってきました。日本の近代化のために尽さんとする志を胸に、自立自足の人民を育成するためのキリスト教主義に基づく大学を設立するという夢の実現に向けて、ここ横浜からその第一歩を踏み出しました。

それは、良心を手腕に運用する人物、いわゆる「一國の良心」ともいえるべき人々の育成であり、「与える教育」の実践でした。当プログラムでは、新島襄の教育事業(大学設立および教育家・宗教学としての足跡)を辿り、その背後にある思想を新島襄が残した言葉を通してご紹介いたします。

「取ることのみに心を奪われ運送する現代において、新島襄の言葉が新たな輝きをもって見つめ直され、希望ある未来への一つのヒントになることを願って、このプログラムを企画いたしました。是非とも私たちの赤レンガ会場にお越しください。」

＜プログラムの構成＞

- 写真パネルの展示(同志社史料センター)
- ビデオ上映[Ask and ye shall receive]
- 遺品画像の展示(米国アンダーヴァー神学校)
- マンドリンクラブによる演奏(14:00～14:30)
- 聖歌隊による合唱(14:30～15:00)

http://bayyokohama150.jp

講演会「八重と新島襄」 NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公

ここ大磯が終焉の地となった新島襄、その妻新島八重。幕末から昭和初期までをエネルギーに生きた八重の人生と新島襄について、特に昭和史の研究、著作で有名な作家・評論家の保坂正康先生による講演会です。

新島八重の生涯は、襄をして「彼女は決して美人ではないが、生き方がハンサムなのです」と言わしめた清麗で波瀾に満ちたものでした。会津藩の砲術師範の家に生まれ、戊辰戦争では銃を手に龍城戦に参加、襄との結婚後は「夫の隣を歩く」欧米式のスタイルで、時代をリードする「ハンサムウーマン」となっていく。襄の没後には日清・日露戦争に黒島清三郎として従軍、日本のナインゲーム入り、戦後は茶道にも造詣を深め、貴族の慶典を授けられました。86年の生涯にわたる信念に基づいて行ってきた八重の生きざまは、復興を目指す日本・東北への力強いメッセージともなっています。

また、新島襄は大磯にあった西洋風邸宅で昭和、明治23年1月23日八重の兄守中46歳の若さでその生涯を終えました。現在は一目瞭然の西洋風邸宅が閑静に、襄の弟子徳富蘇峰の筆による「新島襄先生終焉の地」碑が立ち、その一角は大磯町と町民有志の方々のご尽力により整備されています。

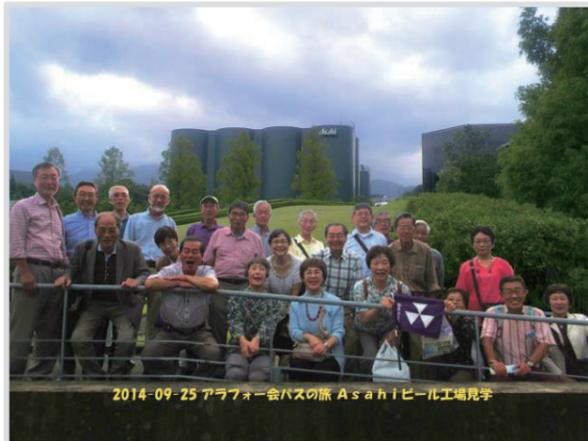
講師紹介：保坂 正康
1939年、札幌生まれ。同志社大学文学部卒。作家・評論家・日本近代史研究者。「昭和史を語り継ぐ会」主宰。主に日本近代史(とくに昭和史)の事象、事件、人物に題材を求め、延べ4,000余人の人物に関わりを行い、ノンフィクション、評論、評伝などの分野の作品を発表している。また、「医学・医療と社会の関係」をテーマにした作品や教育に関する著作も多い。「昭和史研究」の刊行や一連の昭和史関係の著作で2004年に第52回船橋賞受賞。

主要な著書
『自由民の足跡』(改訂版)中公文庫、「田中角栄の昭和」朝日新聞、「昭和史入門」文春新書「襄と家業のみが知る昭和(昭和史の大河を往くシリーズ・第9巻)」毎日新聞社「昭和史7つの謎」講談社文庫：ほか多数

近著『八重と新島襄』24年11月 毎日新聞社(サンデー毎日に掲載された原稿の単行本)

入場無料、定員100名、電話申込
日時：1月23日(水曜日) 15時15分～16時15分
会場：保健センター2階研修室 大磯町東小磯1-83(町役場の隣接建物)
電話申込期間：1月7日(月)から1月21日(月)まで(先着順)
お申込・問合わせは 大磯町役場総務課

2013(平成25)年1月23日
地域交流講演会
演題：「八重と新島襄」
講師：保坂正康氏
聴衆者 100名



2010(平成22)年1月16日
アラフォー会発足
於：中華街 萬珍楼 参加者：12名

2014(平成26)年9月25日
アラフォー会バスの旅
三嶋大社・源兵衛川散策、
老舗「桜家 鰻」とAsahi ビール工場見学
参加者：24名

資料編

2014(平成26)年11月26日の主な出来事

1874(明治7)年11月26日 象の埠頭上陸
新島襄横浜港帰国140周年記念式典
同志社校友会神奈川県支部・同窓会横浜支部
於：ナビオス横浜 参加者：92名

1874(明治7)年11月26日 象の埠頭上陸
新島襄横浜港帰国140周年記念式典
同志社校友会神奈川県支部・同窓会横浜支部
於：ナビオス横浜

受付開始 13:30

1. 式典 14:00 ~ 14:40
(1) 開会の辞 司会者 松田 昌夫 (昭43商)
(2) 支部長挨拶 司会者 竹村 慶三 (昭45法)
(3) 来賓紹介 支部長
(4) 来賓ご挨拶 支部長

2. 講演会 14:40 ~ 15:20
講師 元同志社大学神学部教授 本井 康博 様
演題 「新島襄の再出発 ― 横浜から大磯へ ―」

3. 懇親会 15:30 ~ 16:40
(1) 来賓ご挨拶 同志社大学企画部広報部長 角谷 千尋 様
(2) 乾杯のご挨拶 同志社校友会常任理事 井上 幸男 様
(3) 記念事業実施の経緯、カタルパの語 校友会神奈川県支部 顧問 大坂 信樹 (昭36法)
(4) カレッジソング 校友会神奈川県支部 顧問 河合 五朗 様 (昭29経)
藤田 昇良 様 (昭63商)
(5) 閉会の辞 副支部長 竹久 克彦 (昭41経)
閉会予定 16:55

4. 記念写真撮影 16:40 ~ 16:50頃



同志社創立者 新島襄
横浜港帰国140周年記念植樹式

日時：2014年11月26日(水)
場所：横浜赤レンガパーク緑地内

式次第

司会 同志社横浜支部長 菅野 かづ子
主催者挨拶 校友会神奈川県支部 支部長 竹村 慶三

除幕式 学校法人同志社 総長 大谷 實 様
同志社校友会 副会長 中村 友一 様
校友会神奈川県支部 顧問 大坂 信樹 様

来賓ご挨拶・代表士入れ 学校法人同志社 総長 大谷 實 様
同志社校友会 副会長 中村 友一 様

来賓・主催者士入れ 司会者が順次お名前朗読み上げます。
一度に5名様で順次お願いいたします。

記念写真撮影 ご来賓の皆様と主催者代表

主催 同志社校友会神奈川県支部・同窓会横浜支部



同志社創立者 新島襄
横浜港帰国140周年記念
植樹式

資料編

2015(平成27)年～2016(平成28)年の主な出来事



2015(平成27)年4月28日
大磯町運動公園へのカタルパ苗木寄贈植樹
「2015年(平成27)5月8日号
(株)タウンニュース社 大磯・二宮・中井版 No.1058」



カタルパの花



2015(平成27)年6月28日
神奈川県支部が寄贈したカタルパの苗木を宮城県支部が仙台北教会で植樹



桜美林大学カタルパ寄贈記念写真



2016(平成28)年9月13日
桜美林大学へのカタルパ苗木寄贈植樹
「The Doshisha Times 第726号」

カタルパ

明治16年頃、徳富蘇峰の大江義塾は徴兵制改正で塾生が激減し、塾の存続が危ぶまれました。その時に新島襄は徳富蘇峰を励ますためにアメリカから取り寄せたカタルパの種を贈ります。このため、この木は「師弟愛の木」とも呼ばれています。まもなく、蘇峰・蘆花の兄弟は東京で活躍しますが、父一敬が植えたカタルパは成長して見事な大木となりました。この最初の木は、残念ながら昭和33年の台風で倒れてしまいましたが、2世、3世、4世が立派に熊本で育っています。

資料編

2014(平成26)年～2016(平成28)年の主な出来事



2014(平成26)年6月22日
若手会員増強・大磯史跡巡り&懇親会
参加者:30名(新人22名)

地域交流講演会&コンサート

日時: 1月23日(土曜日) 15時15分～
会場: 藍ステパノ学園 海の見えるホール
申込: 不要(定員200名様 先着順)
お問い合わせ: 090-8794-3218 (竹村)

第一部 講演会 (16:16～)
講師: 同志社大学 同志社社史資料センター 小枝 弘和氏
演題: 「新島襄と終焉の地大磯」
新島の大磯滞在は1ヶ月弱ではあったが、新島の預した資料や書翰・八重の預した和歌などから、新島と八重にとって、大磯はどのような場所であったかを整理と考えていきます。
【小枝 弘和 氏 プロフィール】
同志社大学 同志社社史資料センター 社史資料調査員
京都造形芸術大学非常勤講師 教育学博士
同志社大学大学院文学研究科修士課程修了
徳島大学大学院教育学研究科修士課程修了
2013年特別賞「八重の桜」企画委員
著書「William Smith Clarkの教育思想の研究「札幌農学校の自由教育の源流」(歴史春秋、2012年)」、著書「時代を駆け抜けた新島八重」(歴史春秋社、2012年)

第二部 コンサート (16:00～)
歌手 シンガーソングライター 伊藤 誠氏
テーマ: 「いのちを歌う」
【歌手 シンガーソングライター 伊藤 誠 氏プロフィール】
昭和61年同志社大学文学部卒。第一勧業銀行に勤務しながらシンガーソングライターとしても活動。同氏の7年メメントリー1冊「君の風にならう〜アーティスト伊藤誠の素顔と人恋〜」が、昨年12月BS-105及び山陽放送テレビにて放映された。更に今年(2015年)10月、NHK国際放送にて「Songs of Life-Singer Songwriter Makoto Ito」として特集され、その音楽活動が全世界に向けて紹介された。
島根県松江市出身。昨年(2014年)に島根県よりふるさと大使「運命使」を、そして今年(2015年)には松江よりふるさと大使「松江観光大使」を任命されている。
現在、TV番組「賢者の選択」のエンディングテーマ作曲、作詞・作曲・歌唱中。また、映画「藤原義経」にて「伊藤誠-いのちの輝き-」を主題曲提供中。ソフトな歌声で全国コンサート開催中!

主催: 同志社大学神奈川支部
共催: 学校法人同志社・同志社東京支部・同志社同窓会東京支部
後援: 大磯町・大磯町教育委員会

2016(平成28)年1月23日
地域交流講演会&コンサート

講演会
講師:同志社大学 同志社社史資料センター
小枝弘和氏
演題:「新島襄と終焉の地大磯」

コンサート
歌手:シンガーソングライター 伊藤 誠氏
テーマ:「いのちを歌う」 聴衆者:200名
(一般120名、校友・同窓80名)

《あとがき》
神奈川県支部では、過去の記録書類とか引き継ぎ書類とかいうものは、紙では一切存在しません。また、パソコンに保存された資料も二〇一一年以降は降しかありません。これは専用事務室がないため保管場所もなかったのが主因でしょう。私も歴代支部長のお名前は故沼田支部長までしか存じませんでした。
そこで古い資料を可能な限り集めて年表を作成することとし、これをホームページに掲載と同時に数名の役員が年表データをパソコン上で共有し、このデータを代々引き継ぐこととしました。
日本の古代史の中で、欠史八代と呼ばれる時代があります。これは記紀の中に二代目から九代目の天皇名の記録はあるものの、事績の記録が一切ないので、よく分からないという時代です。
この支部年表でも明治、大正、昭和初期は仕方ないとしても、昭和30年〜44年、昭和46〜53年など「欠史」となっている部分が多々あります。
今後、会員の皆様の中で資料や写真をお持ちであれば、ご貸与いただき、随時収録して充実させていく予定ですので、ご容赦ください。
パソコンでの説明文や編集作業は、実際には加藤邦子さん(昭44文)が全面的にやってくれました。また、支部資料提供は長谷川博行さん(昭30法)を始め、諸先輩のご協力をいただきました。心よりお礼を申し上げます。
竹久克滋(昭41経)



【新島襄帰国 140 周年記念の植樹をした赤レンガ倉庫前】

発行 者:同志社校友会神奈川県支部

支部長 竹村慶三

編集 者:竹久克滋 松田昌夫 平川功 増本尚文 加藤邦子

資料提供:同志社大学同志社社史資料センター

同志社校友会

2017年11月26日 発行